

令和5年度 高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第2回） 概要メモ

日時：令和6年2月20日（火）10：00～12：00

場所：高知県立公文書館 3階会議室（高知市丸ノ内1丁目1-10）

出席者：＜委員＞

宮田委員長、川鍋委員、谷委員、都築委員、西田委員、吉澤委員

小林委員（オンライン）、新開委員（欠席）、松本委員（欠席）

＜事務局＞

＜議題＞

（1）高知県文化芸術振興ビジョン行動計画令和5年度の進捗状況について

（2）令和6年度当初予算等について

＜意見交換＞

（1）に対する意見

委員	<p>県史編さん事業の中で、市町村の個人宅資料の散逸化が進んでおり、厳しいという話があった。</p> <p>市町村はマンパワーがないため、そういったことができていない。市町村との連携や県としてのバックアップが必要だと思う。</p> <p>鳥取県の県史はブックレットを作成している。読みやすく見えて楽しい冊子になっており、鳥取県人の一般の方々の興味を引きそうなテーマを取り上げている。鳥取県史の中から取り上げた手記編もあり、一般の方でも読みやすいブックレットにしている。高知県史を編さんしていく中で、専門の方が見るだけでなく、一般の方が見るブックレットの検討をしてほしい。</p>
事務局	<p>市町村の収集した資料の散逸については、現在、順次市町村を訪問している。前回の県史編さんで使用した資料の所在確認や、市町村の収蔵資料の確認を行っており、既に旧池川町役場の指導等を進めている。これについては、市町村の方で保管体制や事務的な体制を整えることが必要であり、市町村を訪問した際に資料保存等のアドバイスを行っている。また、撮影や記録を取る人材が県内に不足しているため、要請していくこととしている。</p> <p>県史を身近なものにとったご意見については、来年度より、県史の取組について高校生でも十分読み解くことができる小冊子を毎年作</p>

	<p>成していくこととしている。5年後の一区切りの段階では、学術的な修正をまとめた研究紀要のようなものを発行していきたいと思う。</p> <p>今年度については、とさぶしの中で4ページの特集を設けており、県史の取組を知っていただくことから始めている。</p>
委員	<p>県史の編さんには20年近くかかるが、鳥取県は県史を編さんしながらブックレットを作成しているのか。県史ができて一般の方は読まないと思うので、読むための良い方法を考えていただきたい。</p>
委員	<p>とさぶしの県史特集は興味が引かれて面白い。月刊土佐は有料だった。とさぶしも有料化という方向にすると良いのでは。内容やデザインが良いものなので、売れると思う。</p> <p>牧野植物園については、らんまん効果から牧野博士の人間としての魅力や植物画、植物採取、植物分類といったことに関心を移していくといったことが必要。発展に繋げていくために、どのような取組を行うのか、今までの取組をどう積み上げて取り込んでいくか、これからが牧野植物園の腕の見せ所だと思うので、そういった施策をしてほしい。</p>
事務局	<p>とさぶしは年4回発行しており、1回あたり1万部を県内7割、県外3割に配布している。今後は、若い方や海外の方にも知っていただくため、紙媒体だけでなくデジタル媒体での情報発信や、英語版の取組を強化していきたいと考えている。有料化については、大変有り難い言葉をいただいた。いただいたご意見を関係者へ共有していきたい。</p> <p>らんまんについては、観光の方で新たなキャンペーンが始まる予定であり、地域の歴史や文化、資源に触れていただき、長く滞在していただけるようなキャンペーンになると聞いている。その中で、牧野植物園も一つのコンテンツとして活用していただけるよう関係課と検討していきたい。</p>
委員	<p>国民文化祭について、県内大学や専門学校等、県内の若い方々が内容についてアイデアを出せるような仕組みができると良いと思う。積極的に若い方々が制作に意見が言える場をつくることで、高知県の芸術大学からの参加者増加にも繋がると思う。</p> <p>県立美術館で開催されているジブリパーク展は入場来館者数が多いと思うが、ジブリ展と普段の美術館のコレクション展示が分断している印象を受けた。せっかく集客のある企画なので、シャガールや石元</p>

	<p>氏の作品にも目を向けてもらえるような企画になると良いと思う。</p>
事務局	<p>国民文化祭については、昨年10月に、令和8年度に高知県で開催することが内定した。現在は基本構想を検討している段階であり、今後、来年度に向けて実行委員会を立ち上げ、具体的な取組を進めていくこととしているため、その中で若い方のご意見等も踏まえ、こういった形で反映させていくか考えていきたい。</p> <p>美術館のジブリ展については、おっしゃるとおり来ていただいた方に他の展示も見ていただけるような仕組みが重要のため、ジブリ展に限らず他の企画展に関しても、波及効果等について美術館に協議していきたい。</p>
委員	<p>国民文化祭について、小中学生、高校生が活躍する場をつくってほしい。中学生でもボランティア活動は参加する可能性も高いと思う。本県のこれからの文化芸術を担っていく世代なので、色々な場面で体験できるようにしてほしい。高知県総合文化祭のレガシーもあり、色々な面で輪が広がると思うので、ぜひそういったことをお願いしたい。</p>
事務局	<p>中学生、高校生といった次の世代を担う世代の参加について、基本構想の中でも県民総出で考えていくような取組にしたい。学校との連携についても、演者やボランティア等で取り組んでいきたいと考えている。</p>
委員	<p>らんまんに続きあんばんが企画されている。そういったものは、一過性で終わると元通りになりがちに感じており、国民文化祭も同じ。以前国体が高知県で行われた際に、その時は非常に盛り上がったが、いつの間にか記憶に無い。香美市でも「よってたかって」という市全体で色々なイベントを実施したが、美術館でワークショップをするとそれだけ参加して展示会は観ずに帰る方がほとんど。県民全体の文化的な成熟度を徐々に図っていかないと、イベントの時だけ集まるようになる。龍馬パスポートもそうだが、スタンプを集めることだけに熱中し、料金だけ支払って展示会を観ずに帰る方もおり、来館人数の中にはそういった方も含まれている。</p> <p>達成目標も入館者数や参加者人数で評価をされるが、中身の問題もあると思う。簡単な問題ではなく、色々な取組により、県民の文化水準の引き上げに対しそれぞれの分野で連携していかなければならない問題だと思う。国民文化祭も参加した人だけのものにならないように</p>

	<p>してほしい。県史ができた時に見る人がどれだけいるのかといった問題もそうだが、本だと手に取る方もいると思うので非常に良い試みだと思う。</p>
事務局	<p>国民文化祭については、文化芸術に触れていただく機会をつくるということと、中山間地域の民俗芸能の再興等、イベントが終わった後も残るよう意識して取り組んでいきたい。</p> <p>最初にやなせさんの話もあったが、文化国際課の中では、まんが甲子園や、3月に行う漫画家大会議において、できるだけ連続テレビ小説の盛り上げで観客に来ていただけるような取組にすることはもちろん、まんが甲子園自体が学生の創造力や集中力、協調性を育みたいといった思いで長年続けてきた取組なので、いずれにしても、全ての取組が一過性で終わらず、後々に繋がるものにしていきたい。</p>
委員	<p>今回から各施策において目標に対する評価をつけていただいている。これは非常に重要ではあるが、あくまで目安であり、A評価を増やしたいとか、C評価だからだめということではない。今年度牧野植物園がA評価になったのは「らんまん」があったからであり、評価や数にとらわれず、地道に内容を見ながら取り組んでいただきたい。</p> <p>まんがの人材育成について、高知信用金庫でアニメクリエイターの施設をつくり、そこで人材育成していくといった活動を始めるようだが、民間や個人会社と県がどのように関わり、事業とどう連携いくかということは考えているか。</p>
事務局	<p>アニメクリエイターは産業部局の所管であるが、当課としては、まんが甲子園を通じて高校生に色々なことを学んでいただく場を長く提供してきた。まんがに触れる土壌ができたことにより、他県と比べてなじみやすい部分があると思う。そういった触れる機会の提供等、環境づくりを行うことにより、次のアニメクリエイター人材に繋がっていくのではないかと考えている。</p>
委員	<p>事業により担当課が違うが、事業ごとに区切るのではなく、できるだけ連携していただきたい。</p>
委員	<p>施策のC評価については、改善を図るためのきっかけとなるため、むしろ良いと思った。A評価については、目標を達成して良かったで終わってしまうのか、それを担当した、特に指定管理を行っている県立文化施設に対し、頑張ってくれたから指定管理料を増やすといった</p>

	<p>形に繋がらないかと思った。目標は施設と設定していると思うが、施設側の目標を達成するというプレッシャーは大きいと思う。本来的な業務ができているのかといった心配もあり、指定管理にお願いしている部分については、何かメリットをつけるべきではないかと感じた。</p> <p>市町村の文化財保存活用地域計画の策定について、緊急性が感じられていないといったことがあったが、地域の文化財についてきちんと理解を深められているのか。東北地域において、少子高齢化によって千年以上続いている祭りが継続できなくなったり、いくつかの伝統的な祭りで人気もあり人が多く集まるものであっても実施できなくなっている。</p> <p>きちんと理解しながら、文化財の保存や継承をしていく中で、継続ということが今こそ重要に思うが、その緊急性が市町村に理解されていないのはなぜか。</p> <p>そもそも市町村に文化財保護の専門担当職員が配置されていない場合や、多くの業務を抱えており、十分に手が回っていないといったことが推測される。その状況を県としてどのように把握されているのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>文化財保存活用地域計画について、ご意見いただいたとおり、市町村は専門担当職員がいない、自主的な社会教育、生涯学習全体の中の一部として担われているところが多い。そうした中で、文化財や保存伝承についての課題は地元の方からも出てきている。そこが、文化財保存活用計画を策定することの意義とリンクできていないところであるため、継続的に説明に行かなければならないと考えている。</p> <p>無形文化財の支援については、先ほど説明したとおり、担い手を含めて、支える地域の取組に県としても積極的に関わっていこうと考えている。これまでは補助金を交付し、用具等の整備を中心に取り組んできたが、実際に担っていく、地域の文化を支えていく人をつくる取組を来年度以降考えているところ。</p>
委員	市町村に資料館や博物館が全くないところはあるのか。
事務局	ないところが圧倒的であり、あるところの方が少ない。
委員	なおさら文化財への意識が低いことが考えられる。現在、指定文化財以外、指定に至っていないような文化で失われていくものについても目配りしていくといった発想が強くある。無くなったらおしまい

	<p>ものや、やらなくなると伝わらないものであるためとても重要な問題だが、県が全て手を動かしてやることは実際に難しいと思うので、何らかの形で喚起していくことが重要だと思う。</p> <p>県立博物館に予算をつけ、調査を一緒にしてもらおうといったこともあっていいのではないか。資料館がないとなおさら意識が持ちにくい。無くなってからでは遅いので、よろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>市町村に博物館がないという話もあるが、市町村にそういったことをするマンパワーがない中で、例えば、高知新聞の楠瀬氏は地域の方たちに古文書の見方や、資料の残し方を紹介する取組をされており、かなり成果を上げている。せつかくそういったことに取り組みされている民間の方がいるので、連携をしていただきたい。</p> <p>文化財レスキューについて、市町村の民俗資料館が市町村合併した場合、例えば香南市だと、夜須に資料館をつくりとあえず収蔵しているが、海沿いのため津波が来るとも想定される。あらかじめ民俗資料等が散逸してしまわない、津波で流されないような取組がとても重要に思う。</p> <p>先ほども意見があったが、無くなってしまったら終わり。市町村が取り組むことでもあり、市町村で収蔵できないのであれば県の歴史民俗資料館に収蔵するなど、守っていくことが重要。そのために収蔵庫があるが、歴史民俗資料館の収蔵環境は話にならないくらい容量がない。全日本博物館学会では、例えば栃木県の博物館の収蔵庫をつくった事例を紹介しており、博物館の収蔵庫が全国的に重要な問題になってきている。高知県では在り方検討委員会の中で、デジタルデータで残していくといった話も聞いたが、そうではなく物があるということが重要なので、諸々の問題を含めてきちんと対処していくことが求められている。収蔵庫問題はお金のかかる話でもあり、将来に向けて重要なとても大きな問題なので、ぜひご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>民間で取組を進められている方との連携については、県史の民俗部会の中で、情報提供をいただいたり、民間の人材との繋がりも築いているところ。</p> <p>レスキューの問題については、地域計画と関係しているが、市町村の方でどうやって地域の歴史を残していくのかといった検討が必要だと考えている。資料の所在や、どういった流れで資料を救出していく</p>



	<p>のか、そういった取組を学芸員等の専門性のある職員を中心に実施する必要があると思う。県内に専門人材が少なく、市町村の場合は1名しかいないので動きづらいといった課題もあるため、今後は調整を進め、市町村の考えも伺いながらクリアにしていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>資料問題については、資料の収集、分析、保存、活用といった一連で調査の検討をしていくところ。検討の成果を見極めながら、県が中心となりつつも、市町村や民間の方々との役割分担をしながら、適切な収集保存等ができるように取組を進めていきたい。</p>
委員	<p>収蔵庫問題はとても重要だと思う。以前美術館が浸水したことがあったが、津波が来ると言われている中で、そもそも立地が適していない。これまで展示スペースと収蔵庫という、各館1つの収蔵庫をつくってきたが、それでいいのかということを考えても良いのではないかと。県立の博物館や美術館で、共用の大きな収蔵庫をつくる等、これまでの資料の守り方を変えていくことが、防災の側面からも重要になってくると思う。長期的な視野を持ち、長期計画を考えても良いと思う。</p>
事務局	<p>課題整理等をしていく中で、効率的な運用をするための一つの提案だと思うので、参考にさせていただきたい。</p>
委員	<p>文化財レスキューについては、研修も重要だが、現場体験として文化財担当を派遣する等、そういった経験の方向で積極的に体制を整えていただきたい。</p> <p>オールドパワー文化展で、舞台部門を併設してはどうか。ラララ音楽祭と同時開催すると観客も喜ぶと思うので、一工夫すると良いと思う。</p>
委員	<p>市町村の文化財について、須崎市は資料館がない。現在市立図書館を建設する計画もあるが、図書館は複合施設という考え方となっているので、資料保存の面で弱い。そのため、資料を持っている方もどこに持っていけばいいかわからないということがあるので、県でフォローしていただきたい。2年前に須崎市で地域学芸員養成講座を行っていただき、とても良かったが、その後が続いていかず、実際に地域で活動していくという動きにならない。</p> <p>保存の専門設備を急に整えることは難しいと思うので、統合されて使用されていない学校施設等を活用し、一時的にでも文化財を保存していくような動きがあっても良いと思う。</p>

	以上
--	----

(2) に対する意見

事務局	<p>一点補足させていただくが、小林委員より地域の伝統的なお祭りで、例えば東北の方で千年続いたお祭りが後継者不足で途絶えてきているといった話があった。資料4の基本方針2の一つ目「地域の伝統的な祭りや民俗芸能の維持・継承・活用」の中の、祭り行事や民俗芸能の担い手確保の取組や、例えば大学生や企業の従業員の方々を、地域の祭りとマッチングし、運営スタッフ等として派遣していく取組に来年度新たに着手したいと思っている。小林委員からもご指摘があったが、市町村や教育委員会も色々な課題がある中で、文化財まで手が追いついていないといった実態があるため、県がマッチング等の支援をし、人手を送り込むことに新たに組みたい。</p> <p>収益力の向上については、来ていただいた方にお金を使っただけのように、観光商品、お土産商品づくり等についてアドバイスを入れていくような取組や、デジタルアーカイブについても、後継者不足により、このままでは途絶えてしまうようなお祭りや活動の様子をデジタルに記録し、継承、再興の足がかりにしていくための支援について新たに着手していきたいと考えている。</p>
委員	<p>秋葉祭りは出身者が帰ってきて何とか実施している。いつまでそれができるか分からないので、ぜひそういった支援を続けてほしい。</p>
委員	<p>土佐山内家の墓所の保存活用について、補助の実施とあるが、補助主体はどのようなところか。</p>
事務局	<p>文化財保護法に基づき、(公財)土佐山内記念財団が管理団体となり、文化財を保存活用する団体として指定を受けている。財団に対し、国と県から墓所の修理に必要な費用について補助し、財団が適切に修理を実施している。</p>
委員	<p>財団には修繕できるような人材がいるのか。</p>
事務局	<p>財団に担当者を配置し、修理の専門家の取得委員会に指導いただき、具体的な修理計画を立てていく取組や、歴史文化財課の職員も参加させていただき、文化財的な修理についても助言させていただいている。</p>
	以上